東西条地域センターだより

第50号　令和３年６月25日発行

東西条地域センター　〒739-0007 東広島市西条土与丸 2-3-4　TEL･FAX　082-421-2023

花の如き　口をあけたり　燕の子（青木月斗）

燕は初夏から７月にかけて２度産卵する。それぞれ１番子、２番子と呼ぶ。５月になると、１番子が顔を並べて巣の中で親が運んでくる餌を待っている。６月に入れば飛翔を習い始めるほほえましい姿が見られ、青田をかすめて飛ぶ姿はいかにも夏らしくすがすがしい。　（俳句歳時記・角川学芸出版より）

７月の初めにはまだ梅雨期が残っていることもあるが、本格的な夏型の天候、気候で暑さに負けそうです。集中豪雨に見舞われない様、コロナウイルス感染症の拡大が無いように、７月 23 日からのオリンピックが迎えられればと願っています。またパラリンピックは８月 24 日からです。世界平和を標榜する日本・東京大会となることでしょう。これから本格的な夏に入りますので、皆様には日射病・熱中症に気を付けられてお過ごし下さいませ。（センター長：折羽）【写真はセンター玄関のカシワバアジサイ】

大雨に備えて早めに避難！　「警戒レベル３」高齢者など行動を開始！

「レベル４」速やかに安全な場所へ！「いつ･どこへ」家族や地域と決めておく！

「ハザードマップ」を見てみよう！「レベル５」命の危険、上の階や頑丈な建物へ！

新型コロナウイルスの感染拡大が収束しないなか、再び迎える大雨シーズンです。避難勧告が避難指示に一本化されるなど防災情報の見直しもあった。東広島市から頂いたハザードマップを見てみましょう、我が家は大丈夫かしら？がけ崩れの心配はないかしら？　浸水は〇mかしら？2 階まで水が来ることはないかしら？　住む場所のリスクをあらかじめ理解し、早めに避難しましょう。指示を待つのではなく、「自らの命を自ら守る」この基本は本当に大事です。

①いつどこへ避難すべきかを考えるうえで、基本になるのがハザードマップです
②小さな川は急に増水しやすいこともあります、周辺の低い土地は注意が必要です
③避難で大事なのがタイミングです、雨が降り始めてから危機感を持った人が多く、避難の決断が災害発生の直前になってしまっていた過去の事例は多くあります
また救助された人の半分以上は、避難しようと思ったときには手遅れだった事例も多くあります
④速やかに避難するには、災害を想定して「いつ」「誰が」「何をするか」を普段から時系列に決めておく事が有効です。こうした行動計画は「タイムライン」と呼ばれますが、避難所への安全な経路や所要時間を調べ、何を目安にどう動くかを家族や地域で話し合っておくといいでしょう
⑤地域コミュニティ（各区の自主防災会）が全体で防災を推進することが必要です。「地域の住民が危機感を共有し、自律的に行動できる社会を作っていければ被害は減らせる」と言われています

「警戒レベル４」までに、全員避難です！　事前に話し合って決めておきましょう

問い合わせ　東広島市地域づくり推進課　（420）0924　　東西条地域センター（421）2023

お知らせ

①7月17日(土)予定の東西条小学校星空まつりは中止になりました。

②サムエル西条子どもの園様は6月４日「花の日」礼拝（子どもたちが花を持ち寄って教会堂を飾り付けて礼拝をおこなう）を催され、その記念として『素敵な切り花かご』を当センターにご恵贈くださいました。厚くお礼申し上げます。

《市民一人1学習、1スポーツ、1ボランティア 地域センターをご活用ください 》

知っ得！健康体操

日時：７月２９日（木）１４：００～１５：００
場所：東西条地域センター　ホール
講師：高齢者相談センター桜が丘保養園
　　介護福祉士、介護支援専門員、
　　作業療法士、社会福祉士
指導内容：盆踊りを踊って介護予防！
準備物：運動できる服装、飲み物、室内シューズ
定員：４０名
参加費：無料
申込み締切り：７月２７日（火）
次回開催日は９月３０日（木）お楽しみに！

理学療法士から学ぶ健康体操

日時：　８月２６日（木）１４：００～１５：００
場所：東西条地域センター　ホール
講師：西条中央病院リハビリテーション科
　　理学療法士　島津　貴広先生
　　理学療法士　梅本　侑弥先生
定員：４０名
参加費：無料
申込み締切り：８月２２日（火）

≪センター長のつぶやき≫

先日の新聞記事に面白い投稿が載っていましたので紹介します。「エッセンシャルワーカー」この言葉を初めて耳にした時、シャンプーに関係あるのかなと思った。『人々が日常生活を送るために欠かせない仕事を担っている人』のこと、主に医療関係の人を指します。ダイバーシティは潜水が趣味の人が住む街かと思ったら「多様性」。コンプライアンスは「法令順守」でいいと思う。ＳＤＧｓは「持続可能目標」ではだめなのか。深刻さが薄まり軽く聞こえる言葉もある。例えば「ヤングケアラー」。10代で家庭の世話をする子どもたちの厳しい実態は、おしゃれな呼称にせず「10代の家族介護者」にしてほしい。　いま医療現場や介護施設などで働く人たちの現状は厳しい。「エッセンシャルワーカー」という、何となく耳当たりのいい語感が、その意図はないにせよ、実態の苦悩を覆い隠す隠れ蓑になる危惧を感じる。まずは日本語で表記し、続けてカッコでカタカナ語などを添えてメディアは報道してほしい。という投稿でした（一部割愛しています）。私は外来語や外国語などのカタカナ語の意味がわからずに困ることがあります。カタカナ語を多用されると何となく意味が分かった気にはなりますが正しい理解、情報の伝達になっているかは疑問に思います。専門用語など、日本語で表すことが難しい言葉を説明付きでカタカナ語で表現するのは仕方ないでしょう。テレビなどのメディアは、すべての国民にわかりやすくニュースを伝える責務があり、安易にカタカナ語を使ってほしくない。特に新型コロナウイルス感染が拡大した最近の一年間では、「テレワーク(在宅勤務)」「オンライ授業(遠隔授業)」「ロックダウン(都市封鎖)」オーバーシュート(感染爆発・爆発的な患者発生)」など様々なカタカナ語が飛び交い、その多用は日本語の豊かな表現を失わせ、結果として日本文化を失うことにつながると考えます。新型コロナワクチン接種予約、スマホ申請やこのカタカナ語の多用などには高齢者はついていけません。（センター長　折羽邦男）

【センター玄関に咲く紫陽花です】